参考資料5

令和６年度

大学入学者選抜における好事例集

令和８年３月
文部科学省高等教育局

はじめに

- 表紙 …… 01
- 目次 …… 02
- 好事例集作成の目的と好事例の選定方法 …… 03
- 大学入試のあり方に関する検討会議 提言 …… 04

好事例

＜一般選抜＞

- 函館大学「一般選抜（A日程・B日程）」選定区分：ア …… 05
- 産業能率大学「未来構想方式（一般選抜）」選定区分：イ …… 07
- 佐賀大学「一般選抜における特色加点制度」選定区分：エ …… 09

＜一般選抜・総合型選抜＞

- 東北大学「一般選抜／AO入試III期（総合型選抜）」選定区分：オ …… 11

＜総合型選抜＞

- 広島大学「総合型選抜（IGS国内選抜型）」選定区分：ア …… 13
- 広島大学「総合型選抜Ⅰ型（サイエンス研究評価型）」選定区分：イ …… 15
- 広島大学「総合型選抜（フェニックス型）」選定区分：ウ …… 17
- 香川大学「ナーシング・プロフェッショナル育成入試（総合型選抜Ⅰ）」選定区分：エ …… 19
- 叡啓大学「総合型選抜（春入学）」選定区分：エ …… 21

巻頭コラム



学校推薦型選抜における推薦書様式の統一について、実施団体の神奈川県大学入試広報連絡会にお話を伺いました！

ここがポイント！

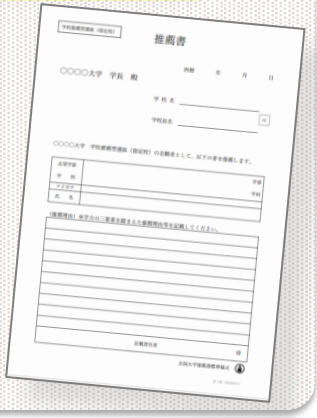
- ✓ 神奈川県内にある13大学において、学校推薦型選抜で使用する推薦書の統一フォーマット「全国大学推薦書標準様式」を令和7年度入試から導入
- ✓ フォーマットの統一により、高校側の書類作成の負担軽減を実現
- ✓ 大学・高校間のコミュニケーション増加により相互理解が促進

Q１　高校側の受け止めはいかがですか？

　書類作成の負担が軽減されたほか、統一様式により推薦書が手元に届く前から準備しておける点も非常に有益であったとの意見がありました。

Q２　今後の展開について教えてください！

　各大学内における個別の改善は適宜対応予定ですが、共通様式の性質上あまり頻繁に様式を変更しない方が良いとの判断から、令和８年度入試での様式変更はしておりません。導入初年度は13大学でのスタートでしたが、現在全国の20大学・短期大学で導入されており、参加大学は今後も拡大していくと考えられます。


推薦書

好事例集作成の目的

- 令和３年７月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議提言」においては、記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れなどについて、他大学の模範となる先導的な取組を推進するため、客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表することが提言されています。
- これを踏まえ、文部科学省において、令和３年10月に「大学入学者選抜における好事例選定委員会」を設置し、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善を一層促進する観点から、令和３年度（試行版）及び令和４年度に続き、他大学の模範となる好事例を選定し本事例集を取りまとめました。

好事例の選定方法

- 調査対象は国公私立大学・短期大学で、各大学から好事例と考えられる取組について記載いただいた令和６年度大学入学者選抜実態調査における調査回答（任意）をもとに選定委員会において審査を実施し、他大学の参考となり得ると考えられる取組９件を選定しました。
- 選定にあたっては、「大学入試のあり方に関する検討会議提言（令和３年７月８日 文部科学省）」を踏まえ、特に推進が求められている以下を選定の対象項目として設定しています。

ア	総合的な英語力の評価・育成	（選定件数　２件）
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成	（選定件数　２件）
ウ	多様な背景等を持った学生の受入れへの配慮	（選定件数　１件）
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進	（選定件数　３件）
オ	文理融合の推進やその他の好事例	（選定件数　１件）



※なお、本文中に記載する選抜の内容は令和６年度入学者選抜において実施されたものであり、関係者の所属・役職名等は、すべて令和７年４月作成時点のもの

大学入試のあり方に関する検討会議 提言（令和３年７月８日）（抄）

第5章　ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜

5．大学入学者選抜の改善に係る実施・検討体制

（2）文部科学省による選抜区分ごとの大学入学者選抜実態調査の定期的実施・公表・分析

- 本検討会議は、選抜区分ごとの詳細な実態調査を行い、データに基づく丁寧な議論を行ってきたが、第1章で整理したように、今後もデータやエビデンスを重視した意思決定を行うことが重要であり、そのためには普段より実態を調査しておくことが必要である。 このため、今般実施したような文部科学省による大学入学者選抜の実態調査については、大学の負担にも留意しつつ、大学 入試政策立案の基礎的な資料として、専門家の助言に基づき、定量的な把握の充実を含めて調査票の改善を図りつつ、大規 模な調査を定期的に行うとともに、特に必要な調査は毎年度実施することが適当である。

（3）大学入学者選抜等の改善に係る好事例の公表及びインセンティブの付与

- これまで述べてきた記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れ、入学後の教育との連動や文理融合等の観点からの出題科目の見直し、入学時期や修学年限の多様化への対応など、大学入学者選抜と大学教育の一体的な改革については、他大学の模範となる先導的な取組を推進することが重要であり、ペナルティを課すという方法ではなく、積極的な取組を促進・評価する観点から、推進策を講じる必要がある。

- このため、既に述べたように、上記（2）で把握した客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し公表するとともに、認証評価や高等教育の修学支援新制度の機関要件に係る教育活動の情報公表、大学ポートレート等の既存の様々な枠組みにおいても、大学入学者選抜の改善状況や優れた取組が適切に公表され、社会から評価される方策を講じることが有益と考えられる。

- さらに、上記の好事例の認定も適切に活用しつつ、インセンティブの付与を検討すべきである。例えば、国立大学については、第4期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方についての検討状況も踏まえ、優れた取組も促進・評価することができるよう検討するべきである。私立大学については、私学助成のうち、特色ある取組や大学改革を推進する支援スキームを活用し、評価項目の見直し等により、他の模範となる優れた取組を促進することを検討すべきである。また、公立大学については、好事例の認定結果を設置者や設立団体に対し、法人（大学）評価や資源配分の参考に活用することができる旨通知することを検討すべきである。

函館大学「一般選抜（A日程・B日程）」

選抜区分
ア
総合的な英語力の評価・育成

ここがポイント

・商学部において英語スピーキングテストを課し、４技能を総合的に評価
・入学後も持続的な英語学習を促す仕組みを構築

令和６年度入学者選抜概要

海外に目を向け、目的意識をもって商学に取り組む学生を選抜するため、学科試験（英語）においてCBT方式によるスピーキングテストを課し、４技能を総合的に評価。

入試方法：一般選抜
対象学部：商学部
募集人員：25名（学部全体の25%）
入学者数：10名（志願倍率0.8倍）
選抜方法：書類審査、学科試験及び面接により選抜。

スピーキングテストについて

【出題方法】
事前に試験問題（20問）を公表し、試験当日に音読問題と写真描写問題を１問ずつランダムに出題。

【実施方法】
学内の情報処理室の端末・ヘッドセットを使用。
既存のCBTシステムを利用し、主監督、サポート教職員、ネットワークサポート職員の計６名及び遠隔地サポート（２事業者）の体制により実施。

選抜の理念、背景にある問題意識

- ビジネスの世界は急速にグローバル化しており商学はこれからの時代に重要性が高まる学問。商学部卒業生が英語を必要とする機会は今後ますます増えてくるため、商学部としては英語教育で一定の成果が求められていると認識。
- 本学における卒業時の英語教育に係る到達目標達成のためには、高校段階において英語4技能の学習を求め、入学者選抜において英語4技能を総合的に評価することが必要と考えた。
- 海外に目を向け、目的をもって商学の学修に取り組む強い意識をもった学生を獲得するため、令和3年度入学者選抜より、学科試験に英語科目を導入し、リーディング・ライティング・リスニングの筆記試験に加え、スピーキングの実技試験を実施。

導入過程

- 平成31年４月より、令和3年度入試での英語4技能試験実施について検討を開始。
翌年４月からはスピーキングテストの実施方法の検討を開始。
- 当初は面接時での対応を予定していたが、スピーキングテストは、一度に複数人が受験できる CBT（Computer Based Testing）を採用。
採点は、CBTで録音された音源を2名の教員が採点する方式。
- 評価者の一貫性を確保する為に、スピーキングテストの評価基準（発音、イントネーション・アクセント、流暢さ、語彙力）をもとに、トレーニングを実施。評価者が変更となる場合は、過年度の採点済みの音源データを活用してトレーニングを実施。

成果検証・課題

- 毎年、アドミッションオフィスで入学者選抜の妥当性について検証を実施しており、一般選抜での入学者については、学力水準は比較的に高いレベルとなっている。
- 一年次における TOEIC Bridge 受験、二年次におけるTOEIC IP 受験を必須とし、卒業時に必要なTOEICスコアを設定。必要に応じて個別指導を実施するなど、持続的な英語学習を促す仕組みを構築。
- CBTについては、一度に多くの受験者に対応できるメリットがある一方で、事前準備に費用・労力のコストがかかるほか、当日のネットワークトラブル等不測の事態への対応等が課題。

函館大学「一般選抜（Ａ日程・Ｂ日程）」

・商学部において英語のスピーキングテストを課し、４技能を総合的に評価
・入学後も持続的な英語学習を促す仕組みを構築

選抜区分
ア
総合的な英語力の評価・育成

選抜の創設過程において、高等学校関係者の反応はどうでしたか。

高等学校の教員には好評だったと思います。とくに英語科教員からは、大学入学者選抜でスピーキング試験を実施することから、本学受験対象者の英語の学び方の変化や、実用英語技能検定を受験する生徒が増えたと聞いています。

英語の学習において音声を活用する必要性は、高校の先生・生徒ともに問題なく受け止めていました。

委員コメント

- CBTを活用した英語の４技能を総合的に評価する取組であり、受験生がスピーキングに積極的に取り組み、入学後においても目指す英語力を身に付ける積極的な学びに繋がると思われる。

- 地方小規模大学だが意欲的な取組を行っている。導入に際して、実施を担う教職員向けに丁寧なガイドを作成するなど、CBT活用の具体的なノウハウは他大学において役立つ有意義なものとなっている。

今後、新たな選抜を制度設計する担当教職員に向けたアドバイスをお願いします。

スピーキング試験は、他の試験科目と異なり、試験実施や採点に労力がかかります。また、志願者数が多ければ、その労力も倍加します。

しかし、CBT（Computer Based Testing）を利用することにより、一度に多数の受験者に対応することが可能です。また、採点については、AI の技術により、自動採点が可能となれば、労力も改善されると思います。人による採点については、スピーキング試験の評価基準の設定や採点者のトレーニングが必要です。

以下は、本学が考察した CBT のメリットとデメリットになります。

＜メリット＞
・一度に多数の受験者に対応できる。
・本学では、ソフトウェア機能とセキュリティ面を勘案し、クラウドサービスのCBTを採用。（情報処理室の端末 40 台を使用）
・スピーキングテストの評価基準を明確にし、トレーニングを実施した教員２名が採点することにより評価の一貫性が確保される。
・ID入力以外は、キータッチ操作がない為、PC操作に慣れていない受験生でも対応が可能。

＜デメリット＞
・端末数に限りがあり複数回に分けて実施する必要があるため、受験生同士が接触しないような動線を確保する必要がある。
・ヘッドセットの使用頻度により接触不良が生じる場合がある。
・ソフトウェアのコストが割高である（セキュリティ対策等のアップデートによりコストが上がる傾向にある）。

【トラブルを想定した事前準備】
・使用端末のアップデートやセキュリティの確認。
・不測の事態を想定した、予備端末及びヘッドセットの設置。
・ネットワーク系のトラブルから、CBT による試験が不可能となった場合を想定した対面試験の準備。

- 野又 淳司-
学長



産業能率大学「未来構想方式（一般選抜）」

選抜区分
イ

思考力・判断力
・表現力の
評価・育成

ここがポイント

・試験当日の未来構想レポート及び事前課題で、主体的な課題解決能力と思考力・判断力・表現力を総合評価
・各学年に開設する地域連携ＰＢＬ科目において、発展的な学びへ接続。

令和６年度入学者選抜概要

事前課題に加え、試験当日に、近未来の架空の地域の課題と解決策を検討する「未来構想レポート」を課す。

入試方法：一般選抜
対象学部：①経営学部、②情報マネジメント学部
募集人員：①10名（学部全体の約2%）、②5名（学部全体の約1%）
入学者数：①13名（志願倍率3.2倍）、②1名（志願倍率1倍）
選抜方法：大学入学共通テスト、事前記述課題、試験当日の未来構想レポートにより選抜。

経営学部・情報マネジメント学部アドミッション・ポリシー（抜粋）

マネジメントに関する知識とスキルを、実践の場で活用することで、社会において活躍できる人材の育成を目指すとともに、自己の将来キャリアを設計し、その達成のために意欲的に困難に立ち向かう力を培います。
上記の能力向上のために、本学では、教養科目を広く学ぶことで政治・経済・文化等の社会の動きを掴み、専門教育として、経営理論科目と実践科目を相互補完的に学ぶことで、実践力（課題発見、分析、実行、評価、振り返り）を修得します。

― そのために、入学希望者には、次の資質を求めます。（抜粋）
・グローバル化している社会の動きに高い関心を持っている
・主体的に課題を発見し、他者と協働して取り組むことができる

選抜の理念、背景にある問題意識

- 過去の事例や理論だけでは最適解を導くことが困難な時代において、知識や経験、収集した情報を総合的に組み合わせて自分なりの解を導き出す力が必要。
- このため、学力の３要素、特に主体性、協働性を面接試験以外で測る方法を模索。
  高大接続事業において探究支援を展開するなかで、探究学習の中心が地域課題であると分析し、テーマ設定。
- 入学後は初年次ゼミにて地域が抱える課題の課題解決に取り組むProject Based Learningを実施。また、２年次以降も多くの地域連携PBL科目を開設し、発展的な学修が可能。

導入過程

- 平成30年頃より、入試企画部にて、新学習指導要領に基づく入学者選抜制度について検討を開始。
- 問題の分析、課題設定、情報収集（スマートフォン等活用）、情報分析を問う問題を出題し、正答は一つの解とすることなく、解答の妥当性、論理性等をルーブリックによる基準をもとに相対的に評価。
- 教職協同のプロジェクトチームを立ち上げ、選抜や評価の方法、入学後の教育等についての共通認識をもとに、一気通貫にて作問、入試運営、採点、評価、合格候補者案作成まで行うことで業務を効率化。

成果検証・課題

- 民間のアセスメントテストを全学的に複数年次で実施しており、本選抜による入学者は、リテラシー、コンピテンシーともに高い学生が多いことを確認。
- また、本選抜で入学した学生たちは、社会に対して広い視野と高い問題意識を持ち、主体的に学修する態度に優れている。
- 本選抜の運用方法については教職協働で検討し、実施後に振り返り、次年度の改善に反映。
- 電子機器での情報検索を可としているが、外部との接触や生成AI利用等の目的外利用を防ぐため、通常の一般選抜よりも多くの試験監督を配置。

産業能率大学「未来構想方式（一般選抜）」

・試験当日の未来構想レポート及び事前課題で、主体的な課題解決能力と思考力・判断力・表現力を総合評価
・各学年に開設する地域連携ＰＢＬ科目において、発展的な学びへ接続。

選抜区分
イ

思考力・判断力
・表現力の
評価・育成

本選抜を創設しようと考えた理由を教えてください。

社会が抱える問題が複雑化する中で、過去の事例や理論だけで最適解を導くことは難しくなっています。また逆に、一通りの解決策であれば、生成 AI に問いかければ答えてくれます。

このような時代において、従来の知識の有無や知識量を問う選抜方式に加えて、知識や経験、収集した情報を総合的に組み合わせて自分なりの解を導き出す力を測る選抜方式が必要だと考えました。

実際に、本選抜方式で入学した学生たちは、社会に対して広い視野と高い問題意識を持ち、主体的に学修する態度に優れています。

本選抜の創設過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したかについて教えてください。

高等学校の先生方から「総合的な探究の時間」で身に付けた力や資質を活かすことができる選抜方式を求める声がありました。

具体的には、社会課題に対する問題意識、情報収集・分析力、考え抜く力、構想・表現力などです。そこで、近未来のある地域の社会状況が書かれた課題文を読み、問題状況を把握し、解決案を検討し、レポートにまとめる本選抜方式を企画しました。

受験者からは、探究学習の経験、自身の問題意識や経験を活かすことができたとの声が上がっています。

新たな選抜を検討する際に意識している点を教えてください。

大学入学者選抜は、高校での学びと大学での学びを結び付ける連結点です。高校の学びが変われば、高校生が身に付ける力も変わります。その力を伸びやかに発揮できる選抜方式を用意することは大学の責務の１つです。高校教育の変化に合わせた新たな選抜方式を提示することで、本学が高校と共に社会の人材育成を担っている自覚を有していることを発信していきたいと考えています。

また、本学は「産業界に最も近い高等教育機関」を標ぼうし、常に企業や地域と「社会が求める人物像」について対話を続けています。その中で、求められる人物像に変化を感じたら、新たな選抜方式の創設を通して高校に「高校時代に備えておくべき力」も変化していることをメッセージとして伝えることも大学の大切な役割だと考えています。

大学入学者選抜は、大学の理念に基づきつつ、社会や高校との対話を通して常に変化していかなければなりません。正直、選抜方式の新設や改編には多大な労力を要しますが、この不断の改善努力を怠れば、高校・大学・社会の接続性は担保できなくなると考えています。

- 杉田 一真 -
経営学部 教授
学長補佐
マーケティング学科主任
入試委員長



学生インタビュー

正解が一つではない問いに対し、どのような回答を記述すべきか不安でした。また、どのように正解を導くかということに捉われず、導いた回答をいかに論理的に説明できるかが試されていると考えました。

入学後のPBL科目受講やゼミでの活動、就職活動などを通して、この選抜方式は、大学受験と大学での学び、そして社会とつながっていると実感し、驚いています。



- 志賀 晃大 -
経営学部 / 経営学科 / 4 年

委員コメント

- 基礎的な学力を大学入学共通テストで確認しつつ、事前記述課題や当日レポートで社会課題への意識を高める取組である。また、当日レポートは、複数の文章やデータから読み取った内容をもとに課題解決の考えを述べるという、思考力・判断力・表現力を測る内容となっている点が評価できる。

- 入学後の地域連携PBLの学びともつながっており、入試が大学の学びのスタートということを体現できている点が優れている。

佐賀大学「一般選抜」における特色加点制度

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

ここがポイント

・高校時代の取組から得られた学びを「特色加点」とし、一般選抜での多面的・総合的な評価を実現
・合否ボーダー層を評価対象とし、合理化・効率化にも配慮

令和６年度入学者選抜概要

学力検査以外の評価を導入することが困難であった一般選抜において、志願者が高校時代に取り組んだ活動や実績を軸に、入学後に何を生かせるかを積極的にアピールする任意提出の書類審査「特色加点」を実施。

入試方法：一般選抜
対象学部：教育学部、芸術地域デザイン学部地域デザインコース、経済学部、理工学部、農学部
募集人員：826名（大学全体の約63%）
入学者数：868名
選抜方法：大学入学共通テスト、個別学力検査等の成績及び調査書により選抜。
特色加点申請書は申請者のみ提出。

■合否判定について
一般選抜（前期日程・後期日程）は、大学入学共通テスト及び個別学力検査の成績、並びに「特色加点」によりアドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。合否判定の手順は学部によって異なります。

学部名	特色加点の評価手順について
教育学部 農学部	①　個別学力検査を受験した申請者全員を採点し、合否判定を行います。 ②　「特色加点」を申請しなかった場合は、「特色加点」分は０点として扱います。
芸術地域デザイン学部（地域デザインコース） 経済学部 理工学部	①　大学入学共通テスト得点と個別学力検査得点を合計した成績上位者において、「特色加点」の配点により合格の可能性が生じる受験者までを「１次選考適格者」とします。 ②　「２次選考」は、１次選考適格者に対し、大学入学共通テスト得点と個別学力検査得点の合計点に、「特色加点」内容の採点結果を加えた総合計点にて合否判定を行います。その際、「特色加点」分を加えなくても合格基準点を上回る受験者に対しては「２次選考」を免除し、合格者とします。 ③　「特色加点」を申請しなかった場合は、「特色加点」分は０点として扱います。 ※合否結果の通知は最終結果のみとし、１次選考・２次選考別には行いません。

選抜の理念、背景にある問題意識

- 従来の制度では、大学入学共通テストの自己採点結果や合格可能性のみを材料に、大学・学部選択をして志願する学生が一定数見られた。
- その中には、アドミッション・ポリシーや学びの内容を理解せずに入学し、入学後にミスマッチが生じ、学修意欲の停滞を招くことで退学につながる学生が存在した。
- こうした学生を一人でも減らすことで、教育活動の質的な向上に繋げたいと考えた。

導入過程

- 学長直下に入試改革推進室を設置し、制度を構築。学部改組を予定していた理工学部と農学部を皮切り（令和元年）に、順次、他学部でも導入した。
- 志願者数が多く、短期間で合否を決定する必要がある一般選抜において書類審査を実施することが最大の課題。合否ボーダー層（※）を評価対象とし、採点業務の合理化を図った。
※加点しても合否結果に影響が生じない学力検査の得点上位層と下位層を除いた者を採点対象とし、全員を対象とした採点結果と合否結果が同じになるようにした
- 短期間で迅速な学力検査の採点を実現するために、電子書類採点システムを民間機関と共同で開発・構築した。

成果検証・課題

- 特色加点は任意の制度であり、未申請者と比べて、申請者には以下の傾向が認められる。
  ① 入学手続き率が高い。
  ② 入学後の学業成績（GPA）が高い。
  ③ 入学時アンケート調査でアドミッション・ポリシーに対する理解が高い。
  ④ 入学前の行動や考え方の特性として、自立性、リーダー性が高い。
- 入学時アンケート調査では、「申請によって志望学部へ入学意思が固まった」と「これまで自分が頑張ったことを振り返る機会になった」の点数が非常に高い。実際の入試では、申請者と未申請者の数名の合否が入れ替わっており、合否ボーダー層において望ましい学生が獲得できていると評価している。

佐賀大学「一般選抜」における特色加点制度

・高校時代の取組から得られた学びを「特色加点」とし、一般選抜での多面的・総合的な評価を実現
・合否ボーダー層を評価対象とし、合理化・効率化にも配慮

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

特色加点制度の特徴を教えてください。

一言でいえば、一般選抜で行う任意提出の書類審査です。大学入学共通テスト、個別試験の合計点とは別に加点枠で評価します。志願者は、高校時代に取り組んだ活動や実績を踏まえて入学後に何を生かせるかを積極的にアピールすることができます。志願者本人の記載資料を評価対象にしたのは、本人が記載することで自省する機会を入試プロセスに組み込み、適性や志向との擦り合わせを自ら行ってもらうことを狙いとしているからです。

一般選抜の合否ラインには多くの受験者が並ぶことがあります。この数点差に学力的に明確な順序性があるわけではありません。そうであれば、この合否ライン付近の受験者に対して学力検査とは異なる要素を加味し、順位を入れ替えようという発想で本制度は設計しています。

委員コメント

- 単に実績を問うのではなく、受験生にその実績や経験が大学の学びにどうつながるのかを考えさせる取組は多くの高校・大学の参考になる。また特色加点を任意としている点、ボーダーの受験生について詳しく採点している点など、制度の運用においても他大学の参考となる。

- 高校での取組や実績を大学入学後の学修や活動にどう生かすかを紐付けて記載させることで、高校での自己の学びを価値づけ、大学への学びへと接続する入試となっている。本制度への申請者について、入学後の学業成績が高いことが検証されていることも評価できる。

当該制度を導入した背景は何ですか。

受験生の中には、アドミッション・ポリシーや学修内容をまったく知らずに入学し、ミスマッチを起こしてしまう学生が一定数存在します。

修学意欲が低下した学生のフォローは大学にとって大きなコストを伴うだけでなく、他の学生にも影響をもたらしかねません。こうした学生を一人でも減らすことは教育の質的な向上に繋がります。

特色加点制度では、志願者が高校時代に頑張った取組を通して身に付けた能力・スキルや経験等が、大学入学後の学修や活動にどのように生かせるか記述することを求めており、効果的にアピールするためには、志望学部のアドミッション・ポリシーや学修内容を理解しておかなければならないように設計しています。こうした仕組みにより、前述のようなミスマッチ回避を目指しています。

当該制度に対する高等学校関係者の理解を得るためにどのような取組を行いましたか。

懸念として、「①志願者本人による申請書作成負担」、「②申請内容に対する受験生の不安」、「③合否ボーダー層評価という仕組みへの理解」、「④書類審査の電子化」の４点がありました。こうした点に関する高校教員向けの説明を徹底するために、本学への志願実績がある高校（のべ322校）を個別に訪問し、面談を通じた制度の説明と情報収集を行いました。

具体的な活動と成果については、「大学入試研究ジャーナル第 30 号」の報告をご参照ください。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/dncjournal/30/0/30_1/_article/-char/ja/

受験生に向けてメッセージがあればお願いします。

「良い入試とは何か」と問われれば、それは受験生の「頑張り」や「努力」が評価される入試だと考えます。佐賀大学の一般選抜では、「基礎学力を高めるための努力」だけでなく、特色加点制度によって「高校時代に熱心に取り組んだ頑張り」も評価しています。

ただし、大学入試で評価されるから〇〇に取り組むという発想にはなって欲しくありません。今、目の前にある自分が挑戦したいことに一生懸命に取り組み、そこから学びを得て欲しいと思います。その学びを言語化し、自分なりに理解できるとさらに素晴らしいです。

私たちは、その学びの成果を評価したいと考えています。もちろん、大学で学びを深めるためには基礎学力が必要であるということも意識しておきましょう。



- 西郡 大 -
理事（教育・学生担当）
副学長
アドミッションセンター長

選抜区分
オ
文理融合の推進やその他の好事例

東北大学「一般選抜 / AO入試Ⅲ期（総合型選抜）」

ここがポイント

・経済学部において、従来の文系入試に加え、理系入試を導入
・数学を重視したカリキュラム変更により文系学生にも数理の重要性が波及

令和６年度入学者選抜概要

数理的な知識を持った人材を育成するため、経済学部の一般選抜および総合型選抜の一部において理系型の入試を行うほか、カリキュラムも数学重視へ変更。

入試方法：①一般選抜、②総合型選抜
対象学部：経済学部
募集人員：①20名（学部全体の8%）、 ②10名（学部全体の4%）
入学者数：①23名（志願倍率6.8倍）、②12名（志願倍率2.4倍）
選抜方法：
一般選抜（前）　共通テスト＋個別（数・理・英）
一般選抜（後）　共通テスト＋個別（数）＋面接
総合型選抜　　書類選考（共通テスト）＋面接
※理系入試では、大学入学共通テストの指定科目も他の理系学部と同様に地歴・公民（4単位科目）1科目、 理科（基礎なし科目）2科目

経済学部アドミッション・ポリシー（抜粋）

人文社会科学的な方法論を軸に経済学・経営学を学ぶ学生を選抜する従来の文系入試に加え、自然科学的思考に強く数理的手法を駆使することができる学生を受け入れる理系入試を設けている。
個別学力検査では理系学部と同様の教科・科目を設定し数理的学力を確認した上で，後期日程においてはさらに出願書類と面接試験により経済社会問題への関心と意欲，論理的な思考力及びコミュニケーション能力等を評価する。

選抜の理念、背景にある問題意識

- ビッグデータ等の活用が新たな価値を創り出す現代社会では、数理的分析の方法を修得した人材の重要性が増々高まっている。
- そのため、経済学部等の文系学部で学ぶ人間・社会に関する知識に加えて、数学など理系の知識も併せ持つ経済の専門家が求められている。
- 特に、ビッグデータや機械学習（AI）の発展については、技術の進展と歩調を合わせ、経済学部でも取り組むべき教育内容である。このような新しい時代をとらえることができる学生を受け入れることを狙っている。

導入過程

- 平成29年度より経済学部の入試のあり方の検討を開始し、平成30年度には理系学生を受け入れるための入試のあり方について議論を行った。
- 令和元年度には理系学生のためのカリキュラムの指針を作成し、令和２年度に学生の受け入れを開始した。
- また、令和４年度からの中期目標・中期計画始動にともなう経済学部のカリキュラム改革にあわせて理系学生用カリキュラムの一層の充実をはかった。

成果検証・課題

- 数学を重視するカリキュラムに変更し、旧来の数学よりアドバンストな数学の授業を導入。令和５年度は文系・理系出身者あわせて100人以上が、令和６年度も70人以上が履修している。また、令和５年度は理系入試での入学者のうち対象学年の約59%が、令和６年度は約46%が履修しており、数理の重要性が認識された結果だと考えている。
- 数理科学共創センターの教員からも高度な数理を含む科目を経済学部に提供している。
- 今後は、進学・就職状況等のデータをもとに、理系入試により入学した学生が経済学やデータ科学等のより数理的な分野に関心を持つようになったかといった点について、更なる追跡調査を計画している。

東北大学「一般選抜 / AO入試Ⅲ期（総合型選抜）」

・経済学部において、従来の文系入試に加え、理系入試を導入
・数学を重視したカリキュラム変更により文系学生にも数理の重要性が波及

選抜区分
オ

文理融合の推進やその他の好事例

本選抜の特徴を教えてください。

経済学部でも数理を重視する傾向が強くなったことから、個別学力検査で数学Ⅲを必須にするなど理系の学生を意識した入試を実施している大学はいくつか存在しています。その一方で、理系の数学のみならず理科も必須科目とした入試を経済学部で実施しているのは東北大学のみです。

本選抜を創設しようと思ったきっかけについて教えてください。

近年、理論経済学や計量経済学などを中心に、経済学において数理の重要性が近年増してきています。また、統計学やオペレーションズ・リサーチといった分野は長く経済学部でも重視されてきた分野です。さらに、機械学習などの発展によりこれらの研究分野は経済学部においても重要性が増してきています。

そこで、経済学部においても理数系に強い学生を確保する必要性に迫られるようになりました。

本選抜の創設過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したか（学外との意見交換等）について教えてください。

近年のデータサイエンスや機械学習への関心の高まりから、統計学に基づいた経済データの処理や、機械学習の取り扱いに長けた経済学部の学生が就職で優遇されていることは周知の事実でした。これらの数理に精通している学生は卒業後、高度な専門職に就くことも多く、この方面の人材を育成することが急務であることは教員内の共通した認識でした。

本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

期待していた通り、数理への関心が強い層が入学してもらえたものと考えています。特に、統計学などの研究室がかつてないほど人気となりました。また理系から進学した学生は、大学院への進学率が高く、高度な研究をすることが多いものと感じています。

今後、新たな選抜を制度設計する担当教職員に向けたアドバイスをお願いします。

社会的なニーズのある層を掘り起こすための入試改革は失敗を恐れずにやってみることが大事であると思います。



- 室井 芳史 -

経営学研究科 教授

受験生に向けてメッセージがあればお願いします。

経済学部は数理、社会、制度、歴史といった多くの切り口から経済・社会を学ぶことができる多様性が高い学部です。幅広く社会に関心を持つ学生さんにぜひ経済学部に興味を持っていただけたらと思います。

経済を学ぶには、さまざまな量を考えることが基本的な考え方となるため、数理によるアプローチも重要な意味を持っています。理工系学部のみならず経済学部にも数理の知識を生かす場があります。経済学部の理系入試にもぜひ興味を持っていただけたらと思います。

学生インタビュー

元々は理学部への進学を検討しており、データを活用して社会の問題を解決する等、数学を社会に応用する学際的な分野に興味がわいたことから、この選抜で受験しました。
経済学では数学を多用しますが、数式に対する抵抗がなくなったと思います。

経済学部 / 4 年

委員コメント

- 入試科目が目新しいわけではないものの、前期日程で理系学部と同じ理科及び数学Ⅲを受験でき、経済学部で数学が重要ということをメッセージとして伝えている入試となっている点が評価できる。
- 本入試を経て経済学部に入学した学生が、その強みを入学後の学びでも発揮できるようなカリキュラムが用意されている点が優れている。

広島大学「総合型選抜 IGS国内選抜型」

選抜区分
ア
総合的な英語力の評価・育成

ここがポイント

・英語面接及び書面審査による総合的な評価を通じて、国内外から高い能力を持つ学生を獲得
・入学後も、英語によるグループワークやアクティブラーニング授業を展開し、英語力を向上

令和６年度入学者選抜概要

全教育課程を英語で実施する国際共創学科（IGS）において、書面審査（英語資格・検定試験スコア又は英語能力を証明できる書類提出必須）および複数教員による30分の英語面接による選抜を実施し、総合的に評価。

入試方法：総合型選抜
対象学部：総合科学部（国際共創学科）
募集人員：10名（学部全体の約6%）
入学者数：10名（志願倍率3.9倍）
選抜方法：第一次選考（書類審査）、最終選考（英語による面接）

総合科学部国際共創学科アドミッション・ポリシー（抜粋）

（1）異なる国や文化、宗教を尊重し、学問分野の枠を超えて課題を理解し、世界平和に貢献したいと考えている人

（2）自然科学に関心があり、人と環境の調和を希求する人

（3）母語以外の言語の習得に意欲的であり、卒業後、国際社会で活躍できる人

選抜の理念、背景にある問題意識

- 国際社会の抱える諸問題や課題の解決に資する人材育成のためには、文理融合型の教育を英語で実施することが必要。
- 一定以上の英語力とともに、多様な背景を持つ他者との高いコミュニケーション能力を有する学生を獲得するために、国内外向けに多様な入試制度を設定。日本以外の国・地域の中等教育課程を修了した者など、一般選抜の受験が難しい志願者に受験の機会を提供。
- 選考の過程で英語のみによる面接を実施することで、「社会的（Social）、国際（Global）、科学的（Scientific）な課題を理解し、自分自身のアイデアを論理的かつ説得力をもって英語で説明することを求めるとともに、社会で活躍する上での適応力や創造性」を評価し、入学後に必要となる能力についても総合的に評価。

導入過程

- 平成30年度の学科開設のため、平成28年度から新学科設置準備委員会及び学部入試委員会で本選抜の準備を開始し、平成29年度秋に初めて実施。
- 留学生と日本人学生がともに学ぶプログラムであるため、留学生の獲得が必須であり、日本国内のインターナショナルスクールや日本語学校へのリクルート活動を行った。また、本学の学部入試では日本語能力の要件のない入学者選抜を実施した例がなく、異なる中等教育を受けた出願者に対応するための準備や関係各所との調整に苦労した。

成果検証・課題

- 入学後にTOEIC IPテストを無料で受験できる機会を複数回提供することで、在学中の語学力も確認・評価。
- 入学後は、学科生全員に対し学生の英語コミュニケーション能力とアカデミック英語の向上を目指して、英語によるグループワーク、ディスカッション及びプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングの授業を展開。
- 卒業生は、グローバルな企業に就職している他、海外の大学院に進学した者もおり、国際的に活躍。

広島大学「総合型選抜 IGS国内選抜型」

・英語面接及び書面審査による総合的な評価を通じて、国内外から高い能力を持つ学生を獲得
・入学後も、英語によるグループワークやアクティブラーニング授業を展開し、英語力を向上

選抜区分
ア

総合的な英語力の評価・育成

選抜の特徴を教えてください。

総合科学部国際共創学科（IGS）はすべての教育課程を英語で実施する学科であり、国内外から多様な人材を獲得するために、複数の選抜を実施しています。本選抜は、国籍に関わらず日本国内で受験する人を対象とし、多様な背景を持つ、英語運用能力の高い学生を獲得するために、実施しています。

本選抜では、専門の異なる複数の教員が審査する書類選考及び英語による面接を実施します。出願資格に日本語能力に関する要件はありません。この選抜方法により、一般選抜での受験が難しい、日本国外の中等教育課程を修了した優秀な能力を持つ学生を獲得できています。また、日本国外の居住国・地域で受験する人を対象とした総合型選抜IGS国外選抜型を同時期に実施し、国内外から幅広く出願できるようにしています。

創設のきっかけや設計において苦労した点、その克服方法について教えてください。

平成30年度の本学科開設に合わせて本選抜が創設され、開設の前年秋に初めて実施しました。学生募集要項をはじめとした出願から入学までに必要なすべての書類を英語で準備しなければならなかった点は苦労しました。また、日本の中等教育課程を修了していない出願希望者の出願資格の確認作業は、ノウハウがなかったため、非常に苦労しました。

書類の準備については、英訳が必要な書類が膨大だったため、一部は翻訳を外注し、校正作業を本学職員が行いました。

一方、出願資格の確認作業については、教育情報をまとめたデータベースを提供している情報センターの会員となり、世界各国の教育制度について確認できる環境を整えました。また、出願資格確認用のチェックリストを作成し、確認作業の効率化を図っています。

本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

本選抜を通じて、多様な背景を持つ学生が入学しています。

日本国内で実施しているため、日本語と英語両方の運用能力が高い学生が多いのが特徴で、英語によるグループワークやディスカッション等を取り入れたアクティブラーニングの授業は、本選抜で入学した学生が、英語運用経験の少ない他の学生を牽引しています。



学生インタビュー



本選抜を受験して、入学後の学びにおいて役立った点があれば教えてください。

このプロセスはIGSで勉強を始めるモチベーションをさらに高めてくれました。

面接では、私が書いたエッセイについて、異なる分野の先生から、私が思いつきもしなかった視点での質問があり、IGSでは学際的な学修を通じて、どの学術分野も他の分野と関連付けることができ、相互に影響してより学びを深められると実感しました。

また、現在は私の強みの一つである語学力を生かしてIGS学生アンバサダー（IGSの学年代表として、カリキュラムや日常生活に関するアイデアや意見をとりまとめる他、学部・学科内の様々なイベントの企画や運営に携わるなど、IGSの中でも中心的な役割を担う）を務めています。クラスメイトや関係者の皆さんの協力もあり、さらに成長できたと感じています。

- PARACIO ROJAS JUAN JOSE -

総合科学部 / 国際共創学科 / 2年

委員コメント

- 優れた国際人を育成するために、選考の過程で英語のみによる面接を実施、入学後は、英語によるグループワーク、ディスカッション及びプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングの授業を展開するなど、英語力を総合的に評価する内容となっており、入学後のフォローも充実している。

- 総合大学としての強みがよく活かされた制度設計となっており、今後は、受験者の拡大や、教員の負荷を軽減するための取組についても期待される。

広島大学「総合型選抜Ⅰ型（サイエンス研究評価型）」

選抜区分
イ
思考力・判断力・表現力の評価・育成

ここがポイント
- 志願者が継続的に取り組む研究活動や課題探究活動を丁寧に評価
- 大学入学後のより発展的な学びや活動へスムーズに接続

令和６年度入学者選抜概要

志願者が継続的に取り組む研究活動や課題探究活動についてプレゼンテーションを実施。審査委員による質疑応答を行い、基礎的知識・コミュニケーション力・課題発見力・問題解決力・論理的思考力・プレゼンテーション力（表現力）を丁寧に評価。

入試方法：総合型選抜
対象学部：総合科学部（総合科学科）
募集人員：6名（学部全体の約4%）
入学者数：6名（志願倍率1.7倍）
選抜方法：第一次選考（書類審査）
　　最終選考（プレゼンテーション（研究発表）と質疑応答）

総合科学部総合科学科アドミッション・ポリシー（抜粋）

（1）基礎的学力を幅広く身につけ、既存の学問分野の枠を超えて、より広い視野で世界をみようと考えている人

（2）知的好奇心に富み、自ら問題を発見し、その問題の背景を理解し、問題解決の道を洞察しようとする意欲を持つ人

（3）他者を理解し自己を表現できる能力を身につけ、卒業後、地域、社会、国の境界を超えて活躍できる人

選抜の理念、背景にある問題意識

- 近年の傾向として学際志向の強い理系学生が増えている一方で、専門領域に軸足を置きつつ学際研究を志向する理系学生の獲得が難しくなってきている。
- 理科・数学・情報の科学分野で研究志向の高い学生の獲得を目的として、自身で取り組んだ研究のプロセスやその体験を通じた将来に向けての展望を有する、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に沿った当該学科生としてふさわしい学生の選考を行うために本選抜を創設。
- 志願者が高等学校（あるいはそれ以前）から継続的に取り組む研究活動や課題探究活動を丁寧に評価し、さらに大学入学後のより発展的な学びや活動へつなげている。

導入過程

- 令和2年度以降、当該学部において学部入試委員会を中心に骨子を作成し、本学の高大接続・入学センターとも連携し、所属教員に意見を聴取するなどして議論を重ね、学部教授会で決定し、令和6年度入学者選抜から導入。



成果検証・課題

- 本選抜による入学者は、入学直後から、「チューターへの相談」「主体的に研究室を訪問」「学内外を問わず興味関心のある講座を自主的に受講」など、知的好奇心に富み、自ら問題を発見しようとする傾向が見られ、意欲的な学生の獲得に繋がっていると認識。
- 出願時の研究対象の学問領域を制限していないため、広範囲な専門領域を的確に審査・評価可能な審査委員の確保が課題。教員数が少ない分野では、特定の教員への負担が大きくなる可能性がある。
- 入学者や関係者等への聞き取りを重ねて、実施方法、入学後の修学体制等について検討を行う予定。
- これまで取り組んできた課題研究や課題探究活動をもとにした発表とその後の質疑応答による丁寧な評価を行うため、多くの志願者の評価（選考）を行うことが難しい。そのため、出願書類（課題研究概要を含む）による第一次選考を行い、適正な人数を選抜する方式を採用。

広島大学「総合型選抜Ⅰ型（サイエンス研究評価型）」

・志願者が継続的に取り組む研究活動や課題探究活動を丁寧に評価
・大学入学後のより発展的な学びや活動へスムーズに接続

選抜区分
イ

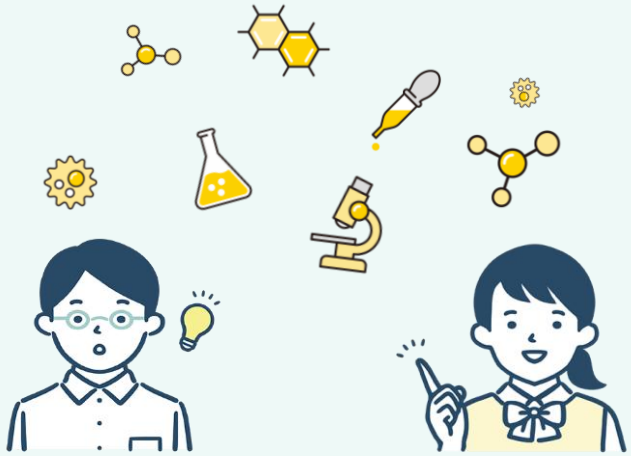
思考力・判断力
・表現力の
評価・育成

本選抜の特徴、創設における問題意識について教えてください。

本選抜は、志願者が高等学校（あるいはそれ以前）から継続的に取り組む研究活動や課題探究活動を書類審査や面接で丁寧に評価し、さらに大学入学後のより発展的な学びや活動へつなげています。



近年の傾向として、学際志向の強い理系学生が増えていることは歓迎すべきところです。一方で、専門領域に軸足を置きつつ、学際研究を志向する学生（主に理系）の獲得が難しくなっている状況があったため、主に理科・数学・情報の科学分野で研究志向の高い学生を獲得する方策が必要と判断しました。



本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

本選抜による入学者は、研究志向が強い学生が多いです。本選抜入学予定者には入学前の期間を利用して自主的に行ってもらいたいことの一覧を提示し、その期間を利用して研究活動を継続することを推奨しています。

また、学生自身も大学入学後、主体的に研究室を訪ねる、学内外を問わず自身が興味関心のある講座を自主的に受講するなど、自身が探究するものへの積極的な姿勢が見られます。

本選抜において苦労した点、その克服方法について教えてください。

研究活動や課題探究活動を審査するため、研究資料や裏付け資料などが多岐にわたり、志願者1人あたりの書類が多い傾向にあります。このため、出願書類の一部をオンライン提出にし、審査工程の一部をセキュリティ管理されたクラウド上で実施する形にしています。

また、志願者が探究する多様な学問領域の審査に対応できるよう、学部内の様々な学問領域から審査を行う教員を選抜し、他の選抜方法に比べて多くの審査委員で審査する体制としています。

受験生に向けてメッセージがあればお願いします。

広島大学総合科学部では、学際性、総合性、創造性を基本理念とし、総合的知見と思考力を涵養するため、高度教養教育を旨とする専門教育を行っています。本選抜はその理念の体現方法の一つとして創設しました。高等学校までの教育の枠にとらわれず、探究活動を評価する選抜ですので、自身がこれまで取り組んできた探究活動を積極的にアピールしていただきたいです。

この選抜は、志願者にとって、自主的な研究活動や課題探究活動をより追究することが直接受験対策となるため、受験のための準備ではなく、研究活動の発展に時間を費やすことができます。



委員コメント

- 受験者の高校時代の研究活動や探究活動を丁寧に評価することで、高大接続を体現する入試となっている点が評価できる。事前に準備できるプレゼンテーション以上に質疑応答を重視していることも重要な点である。
- 多岐にわたる提出資料やプレゼンテーションの内容について評価・判定する際に、他の入試方法と比べてどれだけ深く切り込めるか、さらなる工夫が期待される。

広島大学「総合型選抜 フェニックス型」

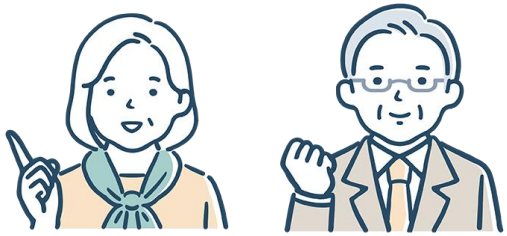
選抜区分
ウ
多様な背景等を持った学生の受入れへの配慮

ここがポイント
- 中高年を対象とした選抜を5学部で実施し、キャンパスの多様性を実現
- 長期履修制度や大学院への進学支援を整備し、意欲ある中高年へのリカレント教育を推進

令和６年度入学者選抜概要

総合科学部、文学部、法学部、経済学部、生物生産学部の５学部において、中高年（満50歳以上または満60歳以上）に向けた選抜を実施。
入学者は学部学生の履修基準に従って学修し、長期履修制度の利用も可能。また、大学院へのフェニックス入学制度もあり、学び続ける中高年をサポートしリカレント教育を推進している。

入試方法：総合型選抜
対象学部：総合科学部、文学部、法学部、経済学部、生物生産学部
募集人員：若干名
入学者数：２名
選抜方法：小論文・面接等により選抜（学部・学科により異なる）



選抜の理念、背景にある問題意識

- 少子化の進展と平均寿命の延伸に伴い、高齢者割合の上昇が進む中、自己実現を図る機会や学位の取得を目指し、よりレベルの高い学習活動を企図する方が増加。
- 広範な学問分野を擁する総合大学として、生涯学習機関としての使命を果たすことが重要。中高年の方が長年にわたり蓄積されてきた知識・経験を学術的にまとめるとともに、生涯にわたって学び続けることの意義を受けとめていただきたいと考えている。
- 本学が求めるのは、「多様な文化・価値観を学び、地域・国際社会で活躍したい人」。本選抜によりキャンパスにおける多様性が高まり、中高年層及び青年層の学生がともに学びや活動に取り組むことで、お互いが多様な文化・価値観について学ぶことができる環境を構築。

導入過程

- 平成11年に全学の教務委員会の下にWGを設け、高齢者を対象とした入学制度及び教育プログラムを検討。
- 中高年の本学公開講座受講者及び本学卒業者合計約 1,000 人を対象に学習ニーズにかかるアンケート調査を実施。
- 平成12年に導入を決定し、学部は平成13年４月から（大学院は平成12年10月から）受入れを開始。
- 選抜区分の見直し等による選抜名称の変更を経て（導入当初の選抜名称は「社会人（フェニックス《高齢者》）特別選抜」）、継続して本選抜を実施。

成果検証・課題

- 入学後のカリキュラムは他の選抜の入学者と同様。また、「HiPROSPECTS®（到達目標型教育プログラム）」により学修成果を評価。
- 高大接続・入学センターが本選抜の入学者からヒアリングや意見交換を実施し、入試制度の検証や改善を検討。
- 本選抜の志願者数増加（志願者獲得）が課題の一つ。広報活動の一環として本選抜の志願者を対象とした説明会を実施し、本選抜の入学者が入学までの経緯や実際に入学した後の学生生活の様子をプレゼン。

広島大学「総合型選抜 フェニックス型」

・中高年を対象とした選抜を５学部で実施し、キャンパスの多様性を実現
・長期履修制度や大学院への進学支援を整備し、意欲ある中高年へのリカレント教育を推進

選抜区分
ウ

多様な背景等を持った学生の受入れへの配慮

本選抜の特徴について教えてください。

本学では全国の国立大学に先駆けて、この入試制度の前身となるフェニックス入学制度を平成 13 年度入学者選抜から実施しており、受験資格を 50 歳または 60 歳以上に限定し、中高年世代を対象とした受入れを行っています。

試験では主に小論文や面接等を実施し、学ぶ意欲や関心を重視した選抜としています。入学後のカリキュラムは、この選抜固有の特別なものではなく、他の選抜方式で入学した学生（青年層等）と同一であり（正課教育）、所定の単位を修得すれば学士の学位を取得することができます。

また、修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修することのできる長期履修制度を設けており、この制度を活用する学生も少なくありません。





さらに、学部卒業後は大学院への進学事例もある他、進学以外では、社会人学生として一般企業に在職のまま本学で修学し、本学卒業後も引き続き同一企業で勤務する、というケースもあります。

本選抜の創設のきっかけや設計において苦労した点、その克服方法について教えてください。

この選抜の創設時期は、生涯のあらゆる時期に希望する学習機会を選択して学ぶことができる生涯学習時代の到来と機を同じくしていました。とりわけ団塊世代が大量に退職し、生涯学習のニーズが一挙に拡大する時代を迎え、このような学習へのニーズに対応するのは大学の使命ではないかとの議論が行われていました。



しかしながら、青年層を主たる対象としてきた大学が、中高年を迎え入れるには新たな入試制度、カリキュラム、修学指導方法、教員組織等の設計・検討が必要でした。

このような困難な議論・検討を乗り越えて実現に向かうことができたのは、国立大学法人化を控え、大学が新たな開かれた大学として大きく変わらなければならないという認識が広がっていたことと、学長の強力なリーダーシップによるものと言えます。

本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

中高年の場合、何のために学ぶか（学修目的）、どのように学ぶか（学修方法）という面で、青年層とは異なる傾向があります。中高年では、就職や卒業後の職業選択のために学修する目的志向よりも、学ぶこと自体を楽しむ学修志向や、仲間や社会とのかかわりを重視する活動志向が見られる傾向にあります。

今後、新たな選抜を制度設計する担当教職員に向けたアドバイスをお願いします。

入学者同士の連携等がうまく機能するような仕組みづくりが課題と考えています。



委員コメント

- LIFESHIFTを具現化した制度であり、平成 13 年度入学者選抜から実施している実績がある。中高年の生涯学習型高等教育として長期履修制度は心強く、大学院との連携や学んだ後の社会的な還元などについても今後の課題として取組が期待される。
- 多くの学部で入学定員を設けていることは評価したい。このような多様性のある環境での教育効果として、若い学生への影響も興味深く、リカレント教育制度のさらなる展開に向けて、重要な知見となると考える。

香川大学「ナーシング・プロフェッショナル育成入試（総合型選抜Ⅰ）」

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

ここがポイント
- 出願時に「入学までの学習計画」を提出させることで主体的に学ぶ意欲を醸成
- 提出された学習計画に基づく入学前教育を行うことで高大接続を実現

令和６年度入学者選抜概要

出願時に「入学までの期間に看護学を学ぶための具体的な準備」を作成させ、これに基づいて合格者に3回の入学前教育を実施。
ミスマッチを防ぎ、主体的に学ぶ意欲を醸成している。

入試方法：総合型選抜
対象学部：医学部（看護学科）
募集人員：25名（学科全体の約41.7% ）
入学者数：27名（志願倍率5.0倍）
選抜方法：第一次選考（書類選考）、第二次選考（小論文、面接）

医学部看護学科アドミッション・ポリシー（抜粋）

◇大学入学までに修得が期待される内容
本学入学後の講義を理解するために必要な基礎学力の修得と、自ら学ぶ姿勢を持つことが望まれます。看護専門職には、他者の意見や価値観を尊重し、他者を思いやることができるコミュニケーション能力が必要となります。高等学校等における学習や課外活動を通して、幅広い視野と主体性・協働性を養い、自分の考えを表現できる力を身につけておいてください。

選抜の理念、背景にある問題意識

- 平成28年度入試まで実施した一般入試（後期日程）による入学学生について、高い率で退学し、留年、休学、退学者もあわせると、定員の１割前後を占める事態が見られた。
- 学生の看護職への志向性にミスマッチが生じていることが原因と分析し、「なぜ香川大学で看護学を学びたいのか」を明確に動機づけされた学生を確保することを目的として、小手先の入試制度の変更ではなく、抜本的な改革が必要との問題意識で検討を開始した。

出願書類（令和６年度募集要項より一部抜粋）

合格後、入学までの約5か月間に、看護学を学ぶ準備としての具体的な取り組み内容 （600字以上800字以内）	合格後、入学までの約５か月の間に，看護学を学ぶ準備としての具体的な取り組み内容について、600字以上800字以内で入力してください。 テーマは特に指定しませんが、そのテーマを取り上げた理由、具体的な行動計画、到達目標と、その成果をどのような方法で評価するかを記載してください。
エッセイ （1000字）	※以下の３つのテーマから１つを選択し、1,000字以内で入力してください。 Ａ．あなたの考える「心に寄り添う」とはどのようなことですか。 Ｂ．コロナ禍の生活で気がついたことに、どのようなことがありますか。なぜ、コロナ禍で気づいたのですか。 Ｃ．あなたの気持ちを伝える時に、心がけていること、苦労したことなどを通して、あなたは何を学びましたか。

導入過程

- 看護学科入試委員だけではなく、アドミッションセンター及び医学部入試事務担当の協力を得て全学的検討体制を構築し、隔週ペースで頻回に検討会を開催した。
- 全学的支援のもとで入試の制度設計を大幅に見直す中で、従来の推薦入試と一般入試（後期日程）を発展的に解消し、平成29年度入試において、香川大学で初めての総合型選抜（当時AO入試）として導入に踏み切った。
- 導入時から年間を通して入試広報活動を実施し、県内外の高校教員との対話の場を設けることで社会のニーズの把握に努めている。

成果検証・課題

- 入試結果と入学後の成績（GPA）を照合して検証を実施しており、その結果、一般選抜入学者との差はなかった。また、本選抜の導入以降、中途退学者が減少していることが効果として認められる。
- 本選抜による入学者は主体性が高く、意欲的に学修する傾向が見られ、アドミッションポリシーに沿った学生が選抜できていると考えている。
- 入学前教育を土曜日や平日の夕刻以降の時間帯で開催するため、協力を得る教員の確保が課題。看護学科入試委員以外の代替教員の確保や、オンラインの利用により、教員の負担軽減を図っている。

香川大学「ナーシング・プロフェッショナル育成入試（総合型選抜Ⅰ）」

・出願時に「入学までの学習計画」を提出させることで主体的に学ぶ意欲を醸成
・提出された学習計画に基づく入学前教育を行うことで高大接続を実現

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

ナーシング・プロフェッショナル育成入試で選抜された学生は、主体性が高く、クラスの中でもリーダーシップを発揮して周囲の学生に良い影響を与えることのできる学生が多いです。

また、自分の進路を明確に定め、自らの目標や夢の実現に向けて意欲的に学ぶ点や、ボランティアなどに積極的に参加して大学行事に貢献する傾向が強くあります。後輩へのサポートも快く応対するなど良い文化が醸成されていると感じています。

今後、新たな選抜を制度設計する担当教職員に向けたアドバイスをお願いします。

大学入学共通テストを課さない入試制度であるため、合格者の学力低下を懸念する意見が学科内外から幾度かありましたが、入学後の分析においては一般入試入学者とGPAでの差はありません。本学においては書類準備の過程において、大学の特徴や看護専門職のことを自ら調べ、キャンパスに足を運んで説明会に参加できる機会や、看護体験ができる行事を実施・提供しています。

このプロセスが、高校生が自ら考えて選択する主体性を育んでいるためか、合格者の辞退が少なく、入学後の進路変更も少ない現状です。専門分野にあった選抜方法の入試制度設計が奏功していると思われます。

受験生に向けてメッセージがあればお願いします。

高校生の時に将来を見据えて進路選択をすることは大きな決断で、ご家族や高校の先生など目上の方のアドバイスや支援を受けることが多いと思います。しかし、自分が社会の中でどういった機能を担い貢献していくかは、最終的に皆さん自身の人生の問題です。多面的に社会の様々な動きに関心を寄せ、自分に合った学問分野を主体的に選択し、学ぶことのできる大学と出会うことが大切だと思います。

香川大学は、高校生の皆さんの夢の実現に向けて全力でサポートする体制が整っているので、オープンキャンパスなどで本学を体験してください。来学をお待ちしています。

- 渡邉 久美 -

医学部入試委員会副委員長（精神看護学　教授）

学生インタビュー



当該選抜の受験に向けて心がけたことがあれば教えてください。

私が特に意識したのは、「自分自身を深く見つめ直す」ということです。面接では特に、自分の経験や価値観、将来像などを自分の言葉で言語化し、他者に伝える力が求められるため、まずは自分が自分のことを最もよく理解している必要があると感じていました。自分の思いや意見を簡潔に言葉にすることは容易ではありませんでしたが、自分自身との対話を重ねていくことで、より適切に自分を表現することができるようになったと思います。

- 徳田 萌花 -

医学部 / 看護学科 / 4年

委員コメント

- 出願時に、大学入学までの５か月間の学習計画について、評価の方法まで計画して提出させることで、主体的に学ぶ意欲の醸成が図られている。合格発表後には、学習の取組状況について３回の入学前教育と成果発表会が実施され、入試から大学での学びへと丁寧に設計されている。
- 入学までの学習への取り組み方を丁寧に指導するなど、入試を終えてから大学入学まで受験生に伴走し、主体的に学ぶ力を育てている点は、高大接続のあり方としてモデルになると考える。

叡啓大学「総合型選抜（春入学）」

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

ここがポイント

・探究型学習・活動に能動的に取り組んだ経験をグループディスカッション等を通じて丁寧に評価
・高大接続プログラムの提供や入学後のPBL必修化を通して高大接続を実現

令和６年度入学者選抜概要

テーマに基づくグループディスカッションと、出願書類及びグループディスカッションの内容に基づく個人面接により、志願者の資質・能力・意欲を多面的・総合的に評価。

入試方法：総合型選抜
対象学部：ソーシャルシステムデザイン学部
募集人員：50名（春入学全体の62.5%）
入学者数：49名（志願倍率1.5倍）
選抜方法：
第一次選考（書類選考）
第二次選考（グループディスカッション・面接）

ソーシャルシステムデザイン学部アドミッション・ポリシー（抜粋）

求める学生像
・国内外の様々な文化、歴史、社会や国際関係に強い関心と探究心があり、他者と積極的にコミュニケーションを行いながら学ぶ意欲がある者
・将来を見据え、目的意識を持って学修に取り組み、自らの能力の向上を目指す者
・高校までの学習で基本的な学力を身に付け、幅広い視野を持って自ら先頭に立ち、他者を巻き込んで様々な課題に取り組み、社会に貢献しようと考えている者

選抜の理念、背景にある問題意識

- 本学が目指す「多様な価値観をもった学生同士が学び合う」キャンパスの実現には、従来の教科・科目試験だけでなく多様な観点で、入学者選抜を実施することが必要。
- このため、書類審査に加え、小論文や面接、グループディスカッションなどを通じて、知識の量だけなく、「思考力」や「表現力」、「他者と協働する姿勢」など受験生の資質・能力・意欲を丁寧に評価。
- 課外活動または個人で探究型プロジェクトに参加して行った活動や、高校の「総合的な探究の時間」における活動など、探究型学習や探究活動に意欲や熱意を持って能動的に取り組んだ経験などについても高く評価。

導入過程

- 入試制度設計の過程において、高校教員や企業・自治体関係者と意見交換を実施し、これからの社会で重要となる資質・能力・意欲への理解を深めた。
- 学習指導要領の目的や、高等学校で実施されている取組、高校生の学びを、入試を通してどのように評価する（接続する）か、などについて議論し、選抜制度や評価方法に反映。
- 入学後に課題解決演習（PBL）を必修とし、国内外での体験・実践プログラム、卒業プロジェクトなど、探究を一つの軸とする学びをカリキュラムに導入。

成果検証・課題

- 自分なりの問題意識や学びの目的を持ち、社会への問題意識をもった入学者が多く、意欲的で主体的に行動する傾向があり、他者の意見を尊重しながら自身の考えを深めていく姿勢も顕著。
- 入学定員の50%を総合型選抜で募集しており、受験生の負担に配慮しながら、評価の公平性と納得感を高める工夫を重ね、継続的に入試の検証と改善を実施。
- 県教委等と連携して実施している高大接続プログラムは、多くの参加者を得ている。少人数でのグループワークが中心であるため、プログラムごとの受講者数を制限せざるを得ない場合があることが課題。

叡啓大学「総合型選抜（春入学）」

・探究型学習・活動に能動的に取り組んだ経験をグループディスカッション等を通じて丁寧に評価
・高大接続プログラムの提供や入学後のPBL必修化を通して高大接続を実現

選抜区分
エ
高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

本選抜の特徴を教えてください。

叡啓大学の総合型選抜は、「どれだけ知っているか」よりも「どう考え、どう行動するか」を重視する入試です。受験生一人ひとりの個性や意欲、探究心、多様な経験を尊重し、総合的に評価するため、書類審査に加え、小論文や面接、グループディスカッションなどを通じて、知識の量だけなく、「思考力」や「表現力」、「他者と協働する姿勢」などを丁寧に見させていただいています。

自ら学び、考え、行動する力を育ててきた方にこそ挑戦していただきたい選抜方式です。

本選抜を創設しようと思ったきっかけや設計において苦労した点、その克服方法について教えてください。

本学では、「多様な価値観をもった学生同士が学び合う」ことを大切にしています。その実現には、学力検査だけでは測れない受験生の個性や意欲、探究心を把握できる選抜方法が必要と考え、総合型選抜の導入を決めました。

また、入学定員の 50% を総合型選抜で募集し、受験生の負担に配慮しながら、評価の公平性と納得感を高める工夫を重ね、継続的に入試の検証と改善を行っています。

本選抜を受験して入学した学生の特徴や入学後の学びの姿勢について教えてください。

総合型選抜で入学した学生には、自分なりの問題意識や学びの目的を持ち、社会への問題意識をもって本学に入学してきた方が多く見られます。そうした学生は、学びに対して非常に意欲的で、授業内外において積極的に発言・発信し、主体的に行動する傾向があります。

また、他者の意見を尊重しながら自身の考えを深めていく姿勢も顕著であり、本学が重視する探究的な学びにおいて中心的な役割を担うとともに、総合型選抜を実施する目的に挙げた「多様な価値観をもった学生同士が学び合う姿」を実現してくれています。

今後、新たな選抜を制度設計する担当教職員に向けたアドバイスをお願いします。

「どのような学生に入学してほしいか」について、学長や学部長、学科長などを含めた教職員全員で徹底的に意見を交わし、目線を合わせることがとても重要だと考えます。



- 川瀬 真紀 -

ソーシャルシステムデザイン学部ソーシャルシステムデザイン学科学科長・教授/課題解決演習総括/コンピテンシー・ディベロップメントセンターセンター長/キャリアデザインオフィスオフィスディレクター

学生インタビュー

受験を通して「なぜ学びたいのか」と真剣に向き合った経験が、大学での学びの土台になっています。



また、受験で培った「自分の想いを言葉にする力」や、「言葉を丁寧に使うこと」「本気で考えること」の姿勢は、今の授業や活動にも大いに役立っています。

- 久保 允治 -

ソーシャルシステムデザイン学部
ソーシャルシステムデザイン学科 / 2年

委員コメント

- 志望理由書や活動報告書の提出により、高校での学びの振り返りを大学での学びへの意欲につなげている。また、小論文やグループディスカッションにより社会課題への意識を高めることで入学後の学びへの接続をスムーズにしている。
- 高校の「総合的な探究の時間」におけるワークショップの開催や学生・教職員による高校生のマイプロジェクトの伴走・壁打ちのサポート、高校生対象のアイディアコンテスト開催など、充実した高大接続プログラムを用意し、丁寧なサポート体制を構築している点が評価できる。